

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年6月25日

**【事業年度】** 第94期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

**【会社名】** 有機合成薬品工業株式会社

**【英訳名】** Yuki Gosei Kogyo Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 伊藤和夫

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋人形町三丁目10番4号

**【電話番号】** 東京(03)3664局3980番

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理部門統括 山戸康彦

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋人形町三丁目10番4号

**【電話番号】** 東京(03)3664局3980番

**【事務連絡者氏名】** 取締役管理部門統括 山戸康彦

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第90期	第91期	第92期	第93期	第94期
決算年月		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	(千円)	9,602,831	9,322,316	8,116,579	8,609,017	9,422,580
経常利益又は経常損失 (△)	(千円)	△213,366	258,871	453,639	3,143	289,858
当期純利益又は当期純損失 (△)	(千円)	△567,622	△11,963	207,735	337,890	53,504
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	3,471,000	3,471,000	3,471,000	3,471,000	3,471,000
発行済株式総数	(千株)	21,974	21,974	21,974	21,974	21,974
純資産額	(千円)	8,873,494	8,779,098	9,151,646	9,729,393	9,994,259
総資産額	(千円)	16,491,041	15,796,484	16,417,850	16,547,964	17,641,863
1株当たり純資産額	(円)	406.15	401.89	419.00	445.49	457.68
1株当たり配当額	(円)	2.00	—	—	3.00	3.00
(うち1株当たり中間配 当額)	(円)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金 額又は当期純損失金額 (△)	(円)	△25.97	△0.55	9.51	15.47	2.45
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	53.8	55.6	55.7	58.8	56.7
自己資本利益率	(%)	—	—	2.32	3.58	0.54
株価収益率	(倍)	—	—	26.08	19.20	105.31
配当性向	(%)	—	—	—	19.4	122.4
営業活動によるキャッシ ュ・フロー	(千円)	144,956	1,996,218	△386,449	1,197,487	1,769,209
投資活動によるキャッシ ュ・フロー	(千円)	△305,250	△502,049	△792,637	△382,821	△761,400
財務活動によるキャッシ ュ・フロー	(千円)	103,568	△592,776	455,862	△693,567	19,927
現金及び現金同等物の期 末残高	(千円)	113,650	1,004,276	278,117	401,194	1,426,943
従業員数	(名)	231	243	245	253	263
[外、平均臨時雇用者 数]	(名)	[24]	[—]	[—]	[—]	[—]

(注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には消費税等は含まれておりません。

3 当社は関連会社がないため、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等の潜在株式がないため記載しておりません。

5 第90期及び第91期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向につきましては、当期純損失が計上されているため記載しておりません。また、第92期は無配のため、配当性向は記載しておりません。

6 第91期から第94期までの平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員の100分の10未満でしたので記載を省略しております。

## 2 【沿革】

昭和22年11月	たばこ香料の生産を目的として、東京都中央区日本橋兜町において有機合成工業株式会社を創立
昭和23年12月	本社を板橋区志村前野町に移転
昭和24年3月	前野工場稼働開始(昭和48年9月、常磐工場に移設)
昭和31年2月	蓮根工場稼働開始(現 東京研究所)
昭和36年8月	本社を中央区京橋に移転
昭和37年7月	現社名 有機合成薬品工業株式会社に改称
昭和37年10月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
昭和39年10月	常磐工場稼働開始
昭和47年12月	東京研究所完成
昭和59年12月	常磐工場に多目的製造設備新設
平成3年6月	本社を千代田区平河町に移転
平成7年6月	本社を現在地(東京都中央区日本橋人形町)に移転
平成13年11月	常磐工場に医薬原薬生産設備新設
平成16年9月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社2社により構成されており、アミノ酸関係、化成品関係、医薬品関係の製造販売を主たる業務として行っております。

当社は、ファインケミカル事業のみの単一セグメントであります。当社グループの主な事業内容と、当該事業に係る位置づけは次のとおりであります。

- ・アミノ酸関係

当社は、アミノ酸、ビタミンなどの製造及び販売を行っております。

- ・化成品関係

当社は、タイヤコード接着剤原料、農薬中間体、シリコン化合物などの製造及び販売を行っております。

- ・医薬品関係

当社は、医薬品原料・中間体などの製造及び販売を行っております。

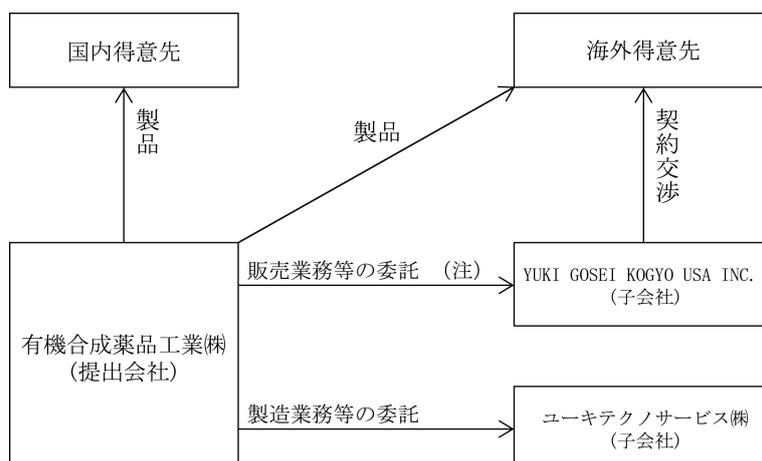
- ・製造業務の請負等

子会社ユーキテクノサービス㈱は、主として当社の製造業務の請負等を行っております。

- ・販売関連業務の請負等

子会社YUKI GOSEI KOGYO USA INC. は、米国における海外拠点として、主に当社製品の販売関連業務の請負等を行っていましたが、平成24年1月以降休眠会社となっております。

以上に述べた事項の系統図は、次のとおりであります。



(注) 子会社YUKI GOSEI KOGYO USA INC. は、現在、休眠会社であります。

## 4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 5 【従業員の状況】

## (1) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
263	41.7	16.3	5,024

セグメントの名称	従業員数(名)
ファインケミカル事業	263
合計	263

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員数であります。  
 2 従業員数には、臨時従業員であるパートタイマー及び嘱託契約の従業員(11名)を含んでおりません。  
 3 平均年間給与(税込)は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

## (2) 労働組合の状況

労働組合は、昭和24年6月結成以来穏健な組合活動を続けており、労使間は円満で紛議を生じたことはありません。

組合員数 177名  
 上部団体 なし

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当期におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀による金融緩和策の効果により、円高是正や株価上昇が進み、企業収益が改善したことなどから、景気は緩やかながらも回復基調にあるという見方がある一方、円安の影響による輸入物価の上昇や新興国を中心とした海外経済の減速など、景気の先行きにつきましては、依然として不透明な状況が続いております。

化学工業におきましても、外需の成長が鈍化する中、原燃料の高騰に伴い企業の収益率が低下するなど、依然予断を許さない状況が続いております。

このような状況下、当社は当期を初年度とする3ヵ年の中期経営計画を策定し、アミノ酸・化成品関係の医薬中間体・原料を始め、医薬品関係（ジェネリックを含む原薬）を成長ドライバーとし、早期に成長軌道に乗せるべく取り組んでおります。その結果、アミノ酸関係では海外市場の風評被害が漸く無くなり、加えて、円安効果により輸出が好調に推移したことから、当期の売上高は前期比9.5%増の9,422百万円となりました。営業利益は、原燃料高騰の影響を受けたことや、研究開発費が嵩んだものの、売上高の増加に伴い231百万円（前期は7百万円の営業利益）、経常利益は、設備投資に係る補助金が営業外収益に計上されたことなどにより289百万円（前期は3百万円の経常利益）と大幅な改善となりました。当期純利益につきましては、東京電力との風評被害に関する平成24年度分の損害について合意に至り、賠償金が特別利益に計上されましたが、事業環境悪化等の理由により、事業撤退を決定した製品の固定資産減損損失及びたな卸資産評価損等を計上したため、前期比84.2%減の53百万円となりました。

#### (アミノ酸関係)

主力製品であるアミノ酸の国内販売は若干減少したものの、輸出は販売数量が大きく伸びた上に円安効果も加わり、前期に比べ大幅に増加いたしました。

#### (化成品関係)

船底塗料用原料の輸出販売は増加しましたが、農薬中間体、特殊触媒並びに金属表面処理剤等の国内販売が大きく減少した結果、前期に比べ減少いたしました。

#### (医薬品関係)

既存医薬品の販売は減少傾向にあるものの、ジェネリックを含む新規医薬品の販売が増えた結果、全体としては前期に比べ若干増加いたしました。

また、輸出は全売上に対して43.4%を占め、輸出金額は4,088百万円(前期比48.1%増)となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は1,426百万円となり前事業年度末に比べ1,025百万円増加いたしました。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は1,769百万円(前期は1,197百万円の増加)となりました。これは主に、税引前当期純利益253百万円と減価償却費559百万円、売上債権の減少754百万円等による資金の増加によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は761百万円(前期は382百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出678百万円等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は19百万円(前期は693百万円の減少)となりました。これは主に、長期借入金の実施1,800百万円、及びそれに伴い実行した長期借入金への借換えによる短期借入金の減少1,240百万円と、既存長期借入金の返済による支出336百万円、社債の償還132百万円等によるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

## (1) 生産実績

セグメントの名称	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
ファインケミカル事業	9,568,524	9,781,603
合計	9,568,524	9,781,603

- (注) 1 金額は販売価格によっております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## (2) 受注状況

当社は受注による生産は僅かであり、主として見込み生産によっておりますので、受注ならびに受注残について、特に記載すべき事項はありません。

## (3) 販売実績

製品区分	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
アミノ酸関係	3,173,128	4,245,965
化成品関係	3,339,689	3,026,383
医薬品関係	2,096,200	2,150,231
合計	8,609,017	9,422,580

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 最近2事業年度の主要な輸出先及び輸出版売高及び割合は、次のとおりであります。  
( )内は総販売実績に対する輸出高の割合であります。

輸出先	第93期		第94期	
	販売金額(千円)	割合(%)	販売金額(千円)	割合(%)
北アメリカ	1,096,292	39.7	2,018,567	49.4
ヨーロッパ	836,888	30.3	1,153,016	28.2
アジア	547,484	19.8	676,517	16.5
その他	279,866	10.2	240,526	5.9
計	2,760,532 (32.1%)	100.0	4,088,627 (43.4%)	100.0

- 3 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	第93期		第94期	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
株式会社山口薬品商会	952,257	11.1	1,123,596	11.9
住友化学株式会社	1,119,798	13.0	1,028,608	10.9

※1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

(1)今後の経済見通しにつきましては、世界経済の成長鈍化、円安による原燃料の高騰、消費税増税などの影響により不透明感は拭えず、当社を取り巻く事業環境は依然厳しい状況が続くものとみております。

このような情勢の中、当社は平成22年から進めてきた3年間の前中期経営計画期間における業績低迷は、震災以外の要因もあったのではと考え、今一度、お客さまを始めとした市場の状況や動向を掴みながら、平成26年3月期を起点とする3ヵ年の「中期経営計画」に沿った諸施策に全社一丸となって取り組むことで収益力の向上を図り、早期に成長軌道に乗せてまいります。

#### <目標達成のための経営課題>

1. 企業風土の変革（意識改革の徹底）
  - ・次代を担う人材育成・教育の強化
  - ・全員参加による工場改革活動の推進
  - ・お客さま視点による意識の徹底
  - ・資産の効率的運用を通じた総資産利益率の向上
2. 高品位アミノ酸でのトップシェア維持・拡大
  - ・海外新規取引先の発掘・獲得
  - ・お客さまのニーズに基づく用途拡大
  - ・原材料調達ソースの多様化によるコスト競争力の強化
3. 収益基盤としての医薬事業の地位確立
  - ・開発スピードを重視した受託体制の強化
  - ・中長期的視野に立った効率的な設備投資
  - ・開発業務の効率化によるコスト競争力の強化
4. 将来を見据えた新規事業への取り組み
  - ・ライフサイエンス分野(食品、化成品等)を中心とした新製品の開発
  - ・医薬分野における新規事業への挑戦
  - ・既存技術の深化、それに基づく新規事業への展開

## (2) 会社の支配に関する基本方針

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方としては、当社の掲げる経営理念を尊重し、それを実現するための具体的諸施策を推進することにより、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保し、継続的に向上させていく者が望ましいと考えます。

当社は、上場企業として当社株式の自由な取引を尊重する観点から、支配権の移転を伴う当社株式の大量買付提案等があった場合には、それが当社の企業価値の向上及び株主共同の利益の確保に資するものかどうかの評価やその是非について、最終的には株主の皆様のご自由な意思により判断されるべきであると考えます。

しかし、対象とする会社の経営陣との意思疎通の努力を怠り、一方的に大量買付行為またはこれに類似する行為を強行する事例が顕在化しております。また、これらの大量買付提案の中には、高値で対象となる会社に株式を買取らせようとするもの、いわゆる焦土化経営をおこなうとするもの、株主の皆様にご提供しなされる株式の売却を事実上強要する恐れのあるもの等、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損する可能性が高いものが少なくありません。

こうした状況下において、大量買付提案等に応じるか否かのご判断を株主の皆様にご適切に行っていただくためには、大量買付者側から買付条件や買収した後の経営方針、事業計画等に関する十分な情報提供がなされる必要があると考えます。また、当社は、その大量買付提案等に対する当社取締役会の評価や意見、大量買付提案等に対する当社取締役会による代替案等を株主の皆様にご提供しなければなりません。当社といたしましては大量買付提案等にかかる一連のプロセスをルール化することにより、関係当事者が最も適切な判断をおこなえるような仕組みを構築することが必須であると考えております。

このような考え方を、「財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」として掲げるとともに、不適切な企業買収行為を防止する仕組みとして「大量買付けのルール」を定めております。

#### 4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

##### (1) 大口取引先への依存度

当社の主な取引先につきましては、住友化学㈱をはじめ、住友商事ケミカル㈱、田辺三菱製薬㈱、味の素㈱、あすか製薬㈱、DSM Nutritional Products(UK) Ltd等を有しております。また、取引上位10社の占める割合は、60.4%となっております。

これらの企業との取引条件の急激な変更や契約解除等の場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 原材料価格の変動

当社で使用する原材料等の購入価格は、国内、国外の状況、ならびに原油、ナフサ価格の動向等に影響を受ける他、原材料等を一部取引先に依存しております。コストダウン、販売価格への転嫁等によりその影響を極力回避する努力をいたしますが、原材料価格の高騰が当社の事業に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 食品添加物関係の価格競争

食品添加物部門の製品群には、中国品等の品質向上もあり、ここ数年これらの海外製品との価格競争が激化している製品があります。このため、今後も価格競争が継続し業績に影響を与える可能性があります。

##### (4) 自然災害等による影響

本社は東京都中央区に、東京研究所は東京都板橋区にそれぞれ位置しておりますが、生産拠点は福島県いわき市のみとなっているため、常磐工場が地震等の自然災害・火災などに罹災した場合は、生産機能が回復するまでの間、操業停止となる可能性があります。

##### (5) 資金繰りに関するリスク

当社は、取引先金融機関とシンジケートローンを締結し、当該契約に基づく借入金が2,250百万円あります。当該シンジケートローンの他にも貸出コミットメントライン契約を締結していますが、これら契約の財務制限条項に抵触した場合には、借入金についての期限の利益を喪失する可能性があります、当社の財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 6 【研究開発活動】

高付加価値新製品の創製を目指し、医薬品関連分野及びファインケミカル分野に関わる研究開発に重点をおいております。

医薬品関連分野では、ジェネリック原薬の製造、あるいは新薬（治験薬を含む）及び既存薬の原薬・重要中間体の受託製造を目指した研究開発を重点的に進めております。また、当社の戦略物質のひとつであるピリジン・ピペリジン誘導体を中心とした医薬中間体・原料の研究開発にも注力しております。

ファインケミカル分野では、還元反応、グリニャール反応、バイオ反応などの戦略技術の応用・深化の研究を進めつつ、IT関連分野、ポリマー関連分野、機能性材料分野を視野に、アミノ酸誘導体、ピリジン・ピペリジン誘導体及び有機ケイ素化合物の研究開発を進めております。

また国内外を問わず、これら化合物の市場展開を積極的に図っております。

尚、当事業年度の研究開発費の総額は、ファインケミカル事業で360,481千円であります。

## 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

この財務諸表の作成に当たって重要な見積りや仮定を行う必要があります。会計方針を適用するにあたり、より重要な判断を要し財政状態及び経営成績に影響を与える項目は下記のとおりであります。

#### ①退職給付費用及び退職給付債務

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付費用は、割引率、昇給率及び期待運用収益率等のさまざまな仮定によって算出しております。割引率及び期待運用収益率は、金利の変動等を含む現状の市場動向等を、又昇給率は実績及び直近の見通しを考慮して決定しております。

当社は退職給付債務に関する会計上の見積りも重要な会計上の見積りとしております。それは仮定の変化が当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があるからです。当社は現在使用している仮定は妥当であると考えておりますが、仮定の変更により退職給付費用及び退職給付債務に影響を与える可能性があります。

#### ②繰延税金資産の回収可能性

当社は、繰延税金資産の回収可能性があると考えられる金額まで減額するために評価性引当額を計上しております。評価性引当額の必要性を検討するに当たっては、将来の課税所得見込み及び税務計画を検討しておりますが、繰延税金資産の取崩しが必要となる可能性があります。

#### ③投資有価証券の評価

その他有価証券で時価のあるものについては、期末日の時価が取得価額に比べて著しく下落したものを減損の対象としております。将来、株式市況や投資先の業績が悪化した場合には、追加的な減損損失の認識が必要となる可能性があります。

#### ④固定資産の減損損失

当社は、固定資産の減損の兆候を判定するにあたっては、グルーピングされた資産について、固定資産税評価額等に基づく正味売却価額により算定した回収可能価額及び会計基準に基づくその他判定基準により実施しております。減損の兆候が発生した場合には、将来キャッシュ・フロー等を見積り回収見込額を測定して減損損失を計上する可能性があります。

### (2) 財政状態の分析

当事業年度における各貸借対照表項目の増減要因は、つぎのとおりであります。

#### (流動資産)

当事業年度末の流動資産は、前事業年度末から497百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加と売掛金の減少によるものであります。

#### (固定資産)

当事業年度末の固定資産は、前事業年度末から596百万円増加いたしました。これは主に、リース資産、投資有価証券の評価差益による増加と、繰延税金資産の減少によるものであります。

#### (流動負債)

当事業年度末の流動負債は、前事業年度末から799百万円減少いたしました。これは主に、買掛金、未払法人税等、設備関係支払手形の増加と、短期借入金の減少によるものであります。

#### (固定負債)

当事業年度末の固定負債は、前事業年度末から1,628百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金、リース債務の増加と、社債の償還による減少によるものであります。

## (純資産)

当事業年度末の純資産合計は、前事業年度末から264百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

## (3) 経営成績の分析

売上高は、前期に比べ813百万円増(前期比9.5%増)の9,422百万円となり、売上総利益は、前期に比べ497百万円増(前期比35.0%増)の1,916百万円となりました。

販売費及び一般管理費は前期比19.4%増の1,685百万円となり、営業利益は231百万円(前期は7百万円の営業利益)、経常利益は289百万円(前期は3百万円の経常利益)となりました。

事業環境の悪化等の理由により、化成品関係事業の一部撤退に伴い発生した費用を、事業撤退損として特別損失に計上したことなどにより、当期純利益は53百万円(前期比84.2%減)となりました。

## (4) 流動性及び資金の源泉

- ① 当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は1,426百万円となり前事業年度末に比べ1,025百万円増加いたしました。当事業年度におけるキャッシュ・フローの状況につきましては、以下のとおりであります。

営業活動により増加した資金は1,769百万円(前期は1,197百万円の増加)となりました。

投資活動により減少した資金は761百万円(前期は382百万円の減少)となりました。

財務活動により増加した資金は19百万円(前期は693百万円の減少)となりました。

- ② 当社は、効率的な資金調達を行うため、取引銀行4行と無担保、無保証の貸出コミットメントライン契約を締結しております。(貸出コミットメントライン契約の総額1,000百万円、当事業年度末の実行残高はありません。)

## (5) 経営成績に重要な影響を与える主な原因とその対応について

当社の売上高に占める大口取引先上位10社の売上高比率は、当事業年度において60.4%(前事業年度54.4%)となっており、これらの企業との取引条件の急激な変更や契約解除等は当社の経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

当社は安定的な経営基盤を維持するため、現行製品の用途開発、生産技術の強化向上等によりこれらの企業との引き続き良好な関係を維持するとともに、新規取引先の確保や新製品の研究開発、現有設備を使った新規事業への参入を積極的に行っております。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当事業年度は、品質改善、生産設備増強等のために、1,079百万円(無形固定資産を含む)の設備投資を実施しました。

当事業年度に完成した主要な設備の新設、増強、改修としては、常磐工場の医薬品製造設備の増強203百万円、所有権移転外ファイナンス・リース資産であるガスタービン発電設備等383百万円があります。

また、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備 の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
			建物	構築物	機械及び 装置	土地 (面積 m <sup>2</sup> )	リース 資産	その他		合計
常磐工場 (福島県 いわき市)	ファイン ケミカル 事業	生産 設備	1,059,170	324,375	1,128,893	1,683,671 (121,548)	376,665	79,692	4,652,468	179
東京研究所 (東京都 板橋区)	ファイン ケミカル 事業	研究 設備	110,328	2,050	11,522	1,119,830 (5,644)	—	60,972	1,304,705	20
生産技術 グループ (福島県 いわき市)	ファイン ケミカル 事業	研究 設備	28,552	—	9,485	—	—	14,545	52,583	17
本社 (東京都 中央区)	—	営業及 び業務 設備	130,180	—	—	204,508 (259)	—	10,737	345,426	47

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、「車両運搬具」「工具、器具及び備品」であり、建設仮勘定は含んでおりません。

3 従業員数には当社への出向者を含み、他社への出向者及び嘱託は含んでおりません。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

## ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,974,000	21,974,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	21,974,000	21,974,000	—	—

## (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成8年12月26日	3,000,000	21,974,000	921,000	3,471,000	921,000	3,250,140

(注) 有償一般募集3,000千株

発行価格 1株につき 646円

発行価額 1株につき 614円

資本組入額 1株につき 307円

## (6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	27	29	44	28	2	2,230	2,360	—
所有株式数(単元)	—	4,766	316	9,160	300	4	7,288	21,834	140,000
所有株式数の割合(%)	—	21.83	1.45	41.95	1.37	0.02	33.38	100.00	—

(注) 自己株式は、137,248株であり、これは「個人その他」に137単元及び「単元未満株式の状況」に248株含まれております。

## (7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ニプロ株式会社	大阪府大阪市北区本庄西3丁目9-3	4,395	20.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,026	4.67
ゼリア新薬工業株式会社	東京都中央区日本橋小舟町10番11号	918	4.18
住友化学株式会社	東京都中央区新川2-27-1	895	4.07
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	816	3.71
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	795	3.62
大日本住友製薬株式会社	大阪府大阪市中央区道修町2丁目6-8	641	2.92
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2丁目5番5号	614	2.79
住友商事ケミカル株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	535	2.43
あすか製薬株式会社	東京都港区芝浦2丁目5-1	366	1.67
計	—	11,001	50.06

(注1) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 1,026千株

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 137,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,697,000	21,697	—
単元未満株式	普通株式 140,000	—	—
発行済株式総数	21,974,000	—	—
総株主の議決権	—	—	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が248株含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 有機合成薬品工業株式会社	東京都中央区日本橋人 形町三丁目10番4号	137,000	—	137,000	0.62
計	—	137,000	—	137,000	0.62

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

## (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	2,821	790
当期間における取得自己株式	406	104

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	137,248	—	137,654	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、経営基盤の強化に向けて内部留保に努めつつ、利益水準を勘案した安定配当の継続を基本方針とし、業績ならびに経営環境を総合勘案して配当を行っております。

また、配当回数については、定款の定めにより年1回の期末配当を行なうこととしており、決定機関は、株主総会であります。

当期の期末利益配当につきましては、上記の方針に基づき1株3円の配当としております。次期におきましては、先行き不透明な状況が継続すると予測されますが、利益配当に関する基本方針に基づき、1株当たり4円の配当を予定しております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当金(円)
平成26年6月24日 定時株主総会決議	65,510	3

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第90期	第91期	第92期	第93期	第94期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	336	264	273	410	337
最低(円)	222	142	143	175	249

(注) 上記株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	平成25年11月	平成25年12月	平成26年1月	平成26年2月	平成26年3月
最高(円)	309	289	295	299	282	279
最低(円)	262	254	264	271	257	255

(注) 上記株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員の様況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	経営管理部門統括	伊藤 和夫	昭和26年9月18日生	昭和50年4月 平成5年4月 平成14年4月 平成16年4月 平成16年6月 平成19年6月 平成24年6月	当社入社 資材部 課長 常盤工場品質企画部・部長 常盤事業所品質保証部・部長 資材部長 取締役就任 代表取締役社長就任(現任)	(注)3	56
取締役	管理部門統括兼経営管理部門副統括	山戸 康彦	昭和32年9月22日生	昭和55年4月 平成17年6月 平成19年5月 平成21年11月 平成22年4月 平成22年6月	(株)三菱銀行入行 (株)東京三菱銀行 小岩支社長 (株)三菱東京UFJ銀行 東京公務部長 当社経理財務部・部長 経理財務部長 取締役就任(現任)	(注)3	6
取締役	営業部門統括	坂上 祐一	昭和28年8月29日生	昭和51年5月 平成17年10月 平成21年4月 平成22年4月 平成22年6月	当社入社 営業本部 営業二部長 第一営業本部長兼アミノ酸部長 アミノ酸本部長 取締役就任(現任)	(注)3	11
取締役	研究開発部門統括	長井 明人	昭和30年11月3日生	昭和54年4月 平成13年6月 平成16年1月 平成18年4月 平成20年4月 平成23年6月	当社入社 東京研究所 開発センター長 常盤事業所常盤工場生産企画部長 常盤事業所常盤工場長兼生産企画部長 経営企画部長 取締役就任(現任)	(注)3	7
取締役	生産部門統括兼常盤工場長	宮田 宣嘉	昭和32年4月5日生	昭和57年4月 平成17年7月 平成18年12月 平成23年6月 平成25年4月 平成26年6月	住友化学工業(株)(現 住友化学(株))入社 大日本住友製薬(株)大分工場製造部長 同社大分工場長 同社プロセス化学研究所長 当社常盤工場長(現任) 取締役就任(現任)	(注)3	—
取締役		山田 啓介	昭和33年5月19日生	昭和60年4月  昭和63年3月 平成元年9月 平成22年1月  平成23年3月 平成26年6月	デロイト・ハスキング・アンド・セルズ 公認会計士事務所(現 有限責任監査法人トーマツ)入所 公認会計士登録 税理士登録 公認会計士・税理士山田啓介事務所設立(現任) (株)辰巳会計事務所入社(現任) (有)山田殖産入社(現任) ピリングシステム(株)社外監査役(現任) 当社社外取締役就任(現任)	(注)3	—

監査役	常勤	原 孝	昭和23年1月22日生	昭和47年12月 平成8年7月 平成17年6月 平成18年4月 平成22年4月 平成22年6月 平成23年6月	当社入社 経理部長 取締役 経理財務部長 社長付 顧問 当社監査役就任(現任)	(注)5	12	
監査役		濱 邦久	昭和9年12月2日生	昭和34年3月 昭和61年6月 平成3年12月 平成5年12月 平成8年1月 平成9年12月 平成19年10月 平成20年6月	司法修習終了 最高検察庁検事 法務省刑事局長 法務事務次官 東京高等検察庁検事長 定年退官 当社一時監査役就任 当社監査役就任(現任)	(注)4	—	
監査役		石原 尚文	昭和20年11月5日生	昭和44年4月 平成9年10月 平成15年9月 平成18年6月 平成20年6月 平成24年6月	住友化学工業(株)入社 日本オキシラン(株) 取締役・総務部長 住友化学工業(株) 名古屋支店長 (株)キャリアサポート 社長 小原化工(株) 監査役 当社監査役就任(現任)	(注)4	—	
計								92

- (注) 1 取締役山田 啓介氏は、社外取締役であります。  
 2 監査役濱 邦久氏および石原 尚文氏は、社外監査役であります。  
 3 取締役の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 4 監査役の任期は、平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 5 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。  
 6 当社は、法令に定める監査役員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		所有株式数 (千株)
久保田 康史	昭和21年2月5日生	昭和45年4月 昭和45年4月 昭和55年4月 平成25年3月	弁護士登録 明舟法律事務所入所 霞ヶ関総合法律事務所パートナー(現任) ロイヤルホールディングス(株)社外監査役(現任)	—

- (注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了の時までであります。

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、経営の健全性、効率性、透明性を向上させ、株主をはじめとするステークホルダーの期待に応え、企業価値を高めていくことがコーポレート・ガバナンスの基本であり、経営の最重要課題のひとつであると認識しております。

#### ① 当社の企業統治に関する事項及びその採用理由

##### イ 会社の機関の内容

当社の取締役会是有価証券報告書提出日現在において社外取締役1名を含む6名で構成しており、原則月1回の取締役会を開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を開催しております。取締役会には取締役並びに監査役が出席し、法令・定款に定められた事項及び規程等に定められた重要事項についての意思決定を行うとともに、取締役の業務執行を監視する機関と位置付け、運営を行っております。

また当社は、監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む3名で監査役会を構成しております。監査役会は原則月1回開催されており、各監査役は、監査役会が定めた方針に従い、取締役会へ出席して意見を述べるほか、取締役の職務執行を監視しており、各監査役の監査状況等の報告が行われております。

このように当社の現状に即した体制をとることにより、適切な企業統治の体制が確保されております。

なお、当社は、社外役員との間で、社外役員が職務を行うにつき、善意でかつ重大な過失がないときは、会社法第423条第1項に定める社外役員の当社に対する損害賠償責任について、会社法第425条第1項に定める金額の合計額を限度とする、責任限定契約を締結しております。

##### ロ 内部統制システムの整備の状況

当社は、コーポレート・ガバナンスの根幹は、コンプライアンスであるとの認識のもと、当社グループ全役員・従業員を対象とする「YGKグループ行動指針」並びに「YGKグループ コンプライアンスマニュアル」を制定するとともに外部専門家である弁護士も委員として加わっているリスクマネジメント・コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス啓蒙教育の実施等を通じて、法令や社会規範などの遵守に止まらず、行動指針・行動規準を全役員・従業員が共有し、良き企業人・良き社会人として求められる価値観・倫理観に基づいた行動を実践するコンプライアンス体制を構築し、その徹底に取り組んでおります。そして、社長直轄の監査室により内部監査を行っております。また、取締役は、使用人に対しコンプライアンス啓蒙を率先垂範して行うことしております。

なお、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役または社外監査役を確保し、1名以上を独立役員としてその氏名を届けております。

##### ハ リスク管理体制の整備の状況

当社のリスクに関する基本的な考え方を明確にしたリスク管理基本規程等を制定するとともに、リスクマネジメント・コンプライアンス委員会の下に情報セキュリティ・品質・災害等の各リスクについて対応部署を中心とするワーキンググループを置き、マニュアルの作成・配布及び研修・訓練の実施等を通じてリスク管理体制の整備を推進しております。また、監査室により内部監査を行っております。

重要な経営判断を要する事項については、その重要度に応じて経営会議、取締役会において判断することといたしております。

## ニ 役員報酬の内容

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)	対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	54	54	4
監査役 (社外監査役を除く)	14	14	2
社外役員	12	12	2

当社の役員ごとの報酬等の総額等につきましては、報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

基本報酬及び賞与は、業績、役位、職能、年功を勘案し、従業員に対する処遇との整合性を考慮した適切な水準を定めることを基本としております。

取締役の報酬限度額は、平成19年6月27日開催の第87回定時株主総会において年額200百万円以内と決議しております。なお、個々の報酬につきましては、取締役会において決議しております。

監査役の報酬限度額は、平成19年6月27日開催の第87回定時株主総会において年額40百万円以内と決議しております。なお、個々の報酬につきましては、監査役会の協議によって定めております。

## ホ 取締役の定数

当社の取締役は11名以内とする旨を定款で定めております。

## ヘ 自己株式の取得

経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

## ト 取締役の選任の決議要件

取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

## チ 株主総会の特別決議の要件

株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項の定める株主総会の特別決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

## ② 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査については、監査室の3名が担当しており、内部監査計画に基づき当社全部門を対象に原則として毎年1回の業務監査等を実施し、社長に対して報告や提言を行っております。

監査役監査については、監査役3名のうち2名が社外監査役であり、取締役会へ出席し意見を述べるほか、重要な書類の閲覧等を行い、客観的な立場で監督機能を果たしております。

また、内部監査、監査役監査および会計監査は緊密な連絡を保ち、重ねて調整する必要が認められる案件、迅速に対応すべき案件等を見極め合理的な監査に努めております。

## ③ 社外取締役及び社外監査役との関係

当社は、平成26年6月25日現在、社外取締役1名、社外監査役は2名の体制としております。

社外取締役山田 啓介氏は、公認会計士であり、ビリングシステム株式会社の社外監査役であります。同氏の選任は、公認会計士として培われた専門的見地から、有用な意見や指摘をいただくことが、当社経営に対して有益であると判断したことによるものであります。なお、当社と同氏および当該会社との間に特別な利害関係はありません。また同氏は株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定しております。

社外監査役濱 邦久氏は、弁護士であり、株式会社証券保管振替機構および日東紡績株式会社の社外取締役ならびに株式会社よみうりランド、株式会社ミロク情報サービス、鹿島建設株式会社、株式会社パロックジャパンリミテッドの社外監査役であります。同氏の選任は、弁護士としての専門的な立場から、経営全般の監査・監視と有効な助言をいただくことで、当社の経営体制をさらに強化できると判断したことによるものであります。なお、当社と同氏および当該各社との間に特別な利害関係はありません。また同氏は株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定しております。

社外監査役石原 尚文氏は、昭和44年4月、住友化学工業株式会社(現、住友化学株式会社)に入社後、日本オキシラン株式会社取締役、株式会社キャリアサポート社長を歴任し、平成20年6月住友化学株式会社を退社、その後平成24年6月まで小原化工株式会社社外監査役を務め、平成24年6月に当社社外監査役に就任いたしました。住友化学株式会社は当社の株式895千株(所有割合4.07%)を所有しており仕入取引、販売取引がありますが、同社との取引は定常的なものであり、特別な利害関係はありません。また、当社と同氏との間に特別な利害関係はありません。同氏の選任は、企業経営の豊富な経験と幅広い識見に基づき、取締役の業務執行および事業活動全般について適切な意見をいただくことで、当社の経営体制をさらに強化できると判断したことによるものであります。

社外取締役ならびに社外監査役は、毎月開催される取締役会に出席し、各々公認会計士・弁護士としての専門的な立場および企業経営の経験などに基づき、取締役の業務の執行および事業活動など全般について、必要事項に応じ適切な意見表明を行っております。また、社外監査役は、監査役会に出席し監査役監査にかかわる重要事項についての協議・決議を行い、他の監査役との意見交換により情報共有を図り監査意見を形成しています。さらに、必要に応じ会計監査人および内部監査部門である監査室との会合を開催し意見交換を行っております。

なお、社外取締役ならびに社外監査役の選任にあたっての当社からの独立性に関する基準につきましては決定しておりませんが、東京証券取引所が定める基準等を参考にしております。

## ④ 業務を執行した公認会計士の氏名

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は横山 博氏と渡部 逸雄氏であり、監査法人保森会計事務所に所属しており、会計監査業務に係る補助者は、社員2名を含む計9名であります。

## ⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 16銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,958,918千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
ゼリア新薬工業株式会社	341,000	495,132	営業上の関係強化のため
大日本住友製薬株式会社	186,000	326,430	取引関係の維持・強化のため
あすか製薬株式会社	150,000	104,850	取引関係の維持・強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	173,000	96,534	取引関係維持のため
小野薬品工業株式会社	15,400	87,164	営業上の関係強化のため
住友商事株式会社	73,000	85,994	取引関係の維持・強化のため
ニプロ株式会社	100,000	83,700	業務提携および資本提携のため
久光製薬株式会社	13,700	70,418	取引関係の維持・強化のため
株式会社クレハ	155,000	51,770	営業上の関係強化のため
株式会社常陽銀行	96,000	50,592	取引関係維持のため
日本ゼオン株式会社	40,000	38,960	取引関係の維持・強化のため
田辺三菱製薬株式会社	22,000	31,790	取引関係の維持・強化のため
株式会社東京都民銀行	8,700	9,831	取引関係維持のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	45,000	8,955	取引関係維持のため
広栄化学工業株式会社	30,000	6,180	取引関係の維持・強化のため
株式会社東京自働機械製作所	39,000	4,680	協力関係維持のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
ゼリア新薬工業株式会社	375,100	786,209	営業上の関係強化のため
大日本住友製薬株式会社	186,000	305,040	取引関係の維持・強化のため
あすか製薬株式会社	150,000	155,550	取引関係の維持・強化のため
小野薬品工業株式会社	15,400	137,676	営業上の関係強化のため
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	173,000	98,091	取引関係維持のため
住友商事株式会社	73,000	95,849	取引関係の維持・強化のため
ニプロ株式会社	100,000	92,700	業務提携および資本提携のため
株式会社クレハ	155,000	75,640	営業上の関係強化のため
久光製薬株式会社	13,700	63,910	取引関係の維持・強化のため
株式会社常陽銀行	96,000	49,440	取引関係維持のため
日本ゼオン株式会社	40,000	37,360	取引関係の維持・強化のため
田辺三菱製薬株式会社	22,000	31,746	取引関係の維持・強化のため
株式会社東京都民銀行	8,700	9,300	取引関係維持のため
株式会社みずほフィナンシャルグループ	45,000	9,180	取引関係維持のため
広栄化学工業株式会社	30,000	6,000	取引関係の維持・強化のため
株式会社東京自働機械製作所	39,000	5,226	協力関係維持のため

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
26,000	—	26,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表について、監査法人保森会計事務所により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合を示すと次のとおりであります。

①資産基準	0.7%
②売上高基準	0.0%
③利益基準	△0.4%
④利益剰余金基準	3.0%

※会社間項目の消去後の数値により算出しております。

### 4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナーへ参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

### (1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

### (2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## ①【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	621,194	1,646,943
受取手形	※4 208,060	198,494
売掛金	3,301,139	2,563,006
製品	2,554,950	2,523,221
仕掛品	504,726	555,895
原材料	798,375	856,555
貯蔵品	77,908	63,030
前払費用	24,439	36,942
繰延税金資産	80,465	81,859
その他	17,054	159,553
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	8,188,015	8,685,203
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,541,847	4,502,878
減価償却累計額	△3,111,994	△3,123,144
建物（純額）	※1 1,429,853	※1 1,379,734
構築物	※3 1,910,219	※3 1,927,585
減価償却累計額	△1,567,904	△1,597,839
構築物（純額）	※1 342,314	※1 329,745
機械及び装置	17,377,611	17,184,613
減価償却累計額	△16,149,063	△16,034,711
機械及び装置（純額）	※1 1,228,548	※1 1,149,901
車両運搬具	93,991	91,955
減価償却累計額	△88,611	△88,853
車両運搬具（純額）	※1 5,380	※1 3,101
工具、器具及び備品	1,519,618	1,502,919
減価償却累計額	△1,401,802	△1,339,699
工具、器具及び備品（純額）	※1 117,816	※1 163,220
土地	※1, ※2 3,181,828	※1, ※2 3,181,828
リース資産	—	383,050
減価償却累計額	—	△6,384
リース資産（純額）	—	※5 376,665
建設仮勘定	54,230	24,889
有形固定資産合計	6,359,970	6,609,087

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
<b>無形固定資産</b>		
借地権	21,920	21,920
ソフトウェア	47,862	66,447
その他	3,986	3,986
無形固定資産合計	73,770	92,355
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	※1 1,552,980	※1 1,958,918
関係会社株式	101,306	101,306
出資金	10	10
従業員に対する長期貸付金	34,859	31,449
長期前払費用	18,722	59,186
繰延税金資産	212,059	98,227
その他	6,270	6,119
投資その他の資産合計	1,926,208	2,255,217
<b>固定資産合計</b>	<b>8,359,948</b>	<b>8,956,660</b>
<b>資産合計</b>	<b>16,547,964</b>	<b>17,641,863</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	253,972	283,634
買掛金	959,097	1,198,633
短期借入金	※1 2,040,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	※1 336,000	※1 336,000
1年内償還予定の社債	※1 132,000	※1 107,000
リース債務	—	25,536
未払金	202,044	196,235
未払費用	32,870	52,670
未払法人税等	93,097	194,351
前受金	—	6,831
預り金	8,574	8,525
賞与引当金	116,280	160,350
固定資産解体引当金	—	※6 60,600
設備関係支払手形	86,432	242,829
設備関係未払金	248,667	83,832
その他	53,494	6,102
流動負債合計	4,562,532	3,763,133
<b>固定負債</b>		
社債	※1 196,500	※1 89,500
長期借入金	※1 502,000	※1 1,966,000
リース債務	—	351,129
再評価に係る繰延税金負債	※2 697,655	※2 697,655
退職給付引当金	822,259	759,507
資産除去債務	14,180	14,109
その他	23,443	6,568
固定負債合計	2,256,039	3,884,470
<b>負債合計</b>	<b>6,818,571</b>	<b>7,647,604</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,471,000	3,471,000
資本剰余金		
資本準備金	3,250,140	3,250,140
資本剰余金合計	3,250,140	3,250,140
利益剰余金		
利益準備金	322,000	322,000
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	41,460	41,460
別途積立金	1,822,000	1,822,000
繰越利益剰余金	555,387	543,374
利益剰余金合計	2,740,848	2,728,834
自己株式	△43,722	△44,512
株主資本合計	9,418,267	9,405,462
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	331,753	602,515
繰延ヘッジ損益	△9,343	△2,435
土地再評価差額金	※2 △11,283	※2 △11,283
評価・換算差額等合計	311,125	588,796
純資産合計	9,729,393	9,994,259
負債純資産合計	16,547,964	17,641,863

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
売上高	8,609,017	9,422,580
売上原価		
製品期首たな卸高	2,515,371	2,554,950
当期製品製造原価	7,218,673	7,599,385
合計	9,734,045	10,154,336
他勘定振替高	※2 △10,283	※2 125,379
製品期末たな卸高	2,554,950	2,523,221
売上原価合計	※1 7,189,378	※1 7,505,734
売上総利益	1,419,639	1,916,846
販売費及び一般管理費		
運搬費	248,846	299,513
役員報酬及び給料手当	392,635	396,184
賞与引当金繰入額	30,012	41,366
退職給付費用	31,525	34,669
減価償却費	43,895	36,713
研究開発費	※3 161,993	※3 360,481
その他	503,193	516,894
販売費及び一般管理費合計	1,412,102	1,685,823
営業利益	7,537	231,023
営業外収益		
受取利息	873	974
受取配当金	33,964	31,881
助成金収入	※4 30,324	※5 127,838
受取技術料	—	16,053
受取補償金	10,414	—
雑収入	34,214	17,204
営業外収益合計	109,791	193,952
営業外費用		
支払利息	51,631	50,521
社債利息	6,100	3,783
アレンジメントフィー	13,000	39,000
課徴金	※6 18,823	—
休止固定資産減価償却費	※7 21,360	※7 32,262
雑損失	3,269	9,549
営業外費用合計	114,185	135,116
経常利益	3,143	289,858

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
特別利益		
受取補償金	※8 910,656	※8 475,919
補助金収入	137,880	—
投資有価証券売却益	7,851	—
特別利益合計	1,056,388	475,919
特別損失		
固定資産除却損	※9 35,328	※9 65,105
減損損失	※10 329,179	—
事業撤退損	—	※11 447,571
投資有価証券評価損	44,350	—
特別損失合計	408,858	512,677
税引前当期純利益	650,673	253,100
法人税、住民税及び事業税	80,000	221,000
法人税等調整額	232,782	△21,404
法人税等合計	312,782	199,595
当期純利益	337,890	53,504

## 【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)		当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 原材料費		3,926,256	53.0	4,166,730	53.0
II 労務費		991,628	13.4	1,062,525	13.5
(賞与引当金繰入額)	※1	(74,320)	(1.0)	(104,897)	(1.3)
(退職給付費用)	※1	(113,217)	(1.5)	(109,110)	(1.4)
III 経費		2,484,764	33.6	2,630,676	33.5
(減価償却費)	※2	(647,346)	(8.7)	(456,065)	(5.8)
(光熱水費)	※2	(612,493)	(8.3)	(733,319)	(9.3)
(外注加工費)	※2	(150,452)	(2.0)	(280,643)	(3.6)
当期総製造費用		7,402,648	100.0	7,859,933	100.0
仕掛品期首たな卸高		442,291		504,726	
合計		7,844,940		8,364,660	
他勘定へ振替高	※3	121,540		209,379	
仕掛品期末たな卸高		504,726		555,895	
当期製品製造原価		7,218,673		7,599,385	

(注) 原価計算の方法は、実際総合原価計算を採用しております。(期中は予定原価を用い、期末において原価差額を調整する方法)

※1 括弧書は労務費の内書であります。

※2 括弧書は経費の内書であります。

※3 他勘定へ振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
機械及び装置等	58,068千円	44,944千円
研究開発費	51,942千円	135,878千円
運搬費	11,529千円	14,237千円
事業撤退損(注)	一千円	14,318千円
計	121,540千円	209,379千円

(注) 事業撤退に伴うたな卸資産の評価減であります。

## ③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		利益剰余金
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金
当期首残高	3,471,000	3,250,140	3,250,140	322,000
当期変動額				
自己株式の取得				
当期純利益				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	3,471,000	3,250,140	3,250,140	322,000

(単位：千円)

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	41,460	1,822,000	217,497	2,402,958	△43,165	9,080,933
当期変動額						
自己株式の取得					△556	△556
当期純利益			337,890	337,890		337,890
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	337,890	337,890	△556	337,333
当期末残高	41,460	1,822,000	555,387	2,740,848	△43,722	9,418,267

(単位：千円)

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	94,506	△12,510	△11,283	70,712	9,151,646
当期変動額					
自己株式の取得					△556
当期純利益					337,890
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	237,246	3,166	—	240,412	240,412
当期変動額合計	237,246	3,166	—	240,412	577,746
当期末残高	331,753	△9,343	△11,283	311,125	9,729,393

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		利益剰余金
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金
当期首残高	3,471,000	3,250,140	3,250,140	322,000
当期変動額				
自己株式の取得				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	—	—	—	—
当期末残高	3,471,000	3,250,140	3,250,140	322,000

(単位：千円)

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	41,460	1,822,000	555,387	2,740,848	△43,722	9,418,267
当期変動額						
自己株式の取得					△790	△790
剰余金の配当			△65,518	△65,518		△65,518
当期純利益			53,504	53,504		53,504
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)						
当期変動額合計	—	—	△12,013	△12,013	△790	△12,804
当期末残高	41,460	1,822,000	543,374	2,728,834	△44,512	9,405,462

(単位：千円)

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	331,753	△9,343	△11,283	311,125	9,729,393
当期変動額					
自己株式の取得					△790
剰余金の配当					△65,518
当期純利益					53,504
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	270,762	6,907	—	277,670	277,670
当期変動額合計	270,762	6,907	—	277,670	264,865
当期末残高	602,515	△2,435	△11,283	588,796	9,994,259

## ④【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益	650,673	253,100
減価償却費	749,780	559,547
賞与引当金の増減額 (△は減少)	39,068	44,070
固定資産解体引当金の増減額 (△は減少)	—	60,600
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△52,650	△62,752
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△21,500	—
固定資産除却損	35,328	65,105
減損損失	329,179	—
事業撤退損	—	246,816
投資有価証券売却損益 (△は益)	△7,851	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	44,350	—
受取補償金	△910,656	△475,919
補助金収入	△137,880	△127,838
受取利息及び受取配当金	△34,838	△32,856
雑収入	△74,953	△33,257
支払利息	57,731	54,304
雑損失	35,093	48,549
売上債権の増減額 (△は増加)	△586,084	754,530
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△171,851	△62,741
仕入債務の増減額 (△は減少)	25,345	203,787
未払又は未収消費税等の増減額	91,622	△71,102
その他	83,127	18,444
小計	143,034	1,442,388
利息及び配当金の受取額	34,840	32,843
利息の支払額	△58,011	△40,689
補償金の受取額	910,656	475,919
補助金の受取額	137,880	200
その他	39,386	△12,186
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△10,298	△129,266
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,197,487</b>	<b>1,769,209</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△1,333	—
投資有価証券の売却による収入	141,354	—
有形固定資産の取得による支出	△504,086	△678,123
固定資産の除却による支出	△16,015	△44,414
貸付けによる支出	△1,000	△470
貸付金の回収による収入	4,453	3,880
無形固定資産の取得による支出	△7,184	△42,014
その他固定資産の取得による支出	△1,469	△1,390
その他固定資産の解約による収入	2,461	1,132
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△382,821</b>	<b>△761,400</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△200,000	△1,240,000
長期借入れによる収入	—	1,800,000
長期借入金の返済による支出	△336,000	△336,000
リース債務の返済による支出	—	△6,384
社債の償還による支出	△157,000	△132,000
自己株式の取得による支出	△556	△790
配当金の支払額	△10	△64,897
財務活動によるキャッシュ・フロー	△693,567	19,927
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,978	△1,987
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	123,077	1,025,748
現金及び現金同等物の期首残高	278,117	401,194
現金及び現金同等物の期末残高	※ 401,194	※ 1,426,943

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式……………移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 製品、原材料、仕掛品…総平均法

(2) 貯蔵品 …最終仕入原価法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りです。

建物 7～50年

機械及び装置 5～8年

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、有形固定資産の減価償却の方法については、従来、定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法)を採用しておりましたが、当期を初年度とする中期経営計画を策定したことを契機に減価償却の方法を見直しました。

その結果、近年の投資設備の稼働の実態が長期安定的であり、将来の設備の稼働もより平準化されると予測されることから、定額法が当社の設備稼働の経済的な実態をより適切に反映し得る減価償却の方法であると判断し、当事業年度より有形固定資産の減価償却の方法を定額法に変更しております。

これに伴い、前事業年度と同一の方法によった場合と比べ、売上総利益が138,497千円、営業利益が158,417千円、経常利益が186,054千円、税引前当期純利益が186,054千円それぞれ増加しております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

(3) リース資産

エネルギーサービス契約に内包される所有権移転外ファイナンス・リース取引に相当する設備であります。エネルギーサービス契約期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 6 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えて、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

## (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

## ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

## ② 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定率法により発生した事業年度から費用処理しております。

## (4) 固定資産解体引当金

当事業年度末における、設備撤去に伴う費用を計上しております。

## 7 ヘッジ会計の方法

## (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、振当処理の要件を満たす為替予約取引については、振当処理を行っております。また、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理を採用しております。

## (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

## a. ヘッジ手段……為替予約取引

ヘッジ対象……外貨建金銭債権債務

## b. ヘッジ手段……金利スワップ

ヘッジ対象……借入金の利息

## (3) ヘッジ方針

営業取引に係る将来の為替レートの変動リスクを回避し、キャッシュ・フローを固定化する目的で為替予約取引を行っており、また借入金の金利変動リスクを回避する目的で金利スワップ取引を行っておりますが、投機目的のために単独でデリバティブ取引を利用することはしない方針であります。

## (4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、振当処理の要件を満たしているため、有効性の判定は省略しております。金利スワップ取引については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判定しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の判定は省略しております。

## 8 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## 9 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

#### (1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

#### (2) 適用予定

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

#### (3) 当該会計基準等の適用による影響

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正による財務諸表に与える影響額は、退職給付引当金が36,037千円及び繰延税金資産が12,749千円それぞれ増加し、利益剰余金が23,287千円減少する見込みであります。なお、損益計算書に与える金額は軽微となる見込みであります。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、独立記載しておりました「無形固定資産」の「電話加入権」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるために、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「無形固定資産」に表示していた「電話加入権」3,986千円は、「その他」3,986千円と組み替えております。

前事業年度において、独立記載しておりました「投資その他の資産」の「保険積立金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるために、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」に表示していた「保険積立金」1,032千円、「その他」5,237千円は、「その他」6,270千円と組み替えております。

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立記載しておりました「販売費及び一般管理費」の「支払手数料」、「賃借料」は、科目を掲記すべき数値基準が、販売費及び一般管理費の100分の5を超える場合から、100分の10を超える場合に緩和されたため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の「販売費及び一般管理費」に表示していた「支払手数料」91,815千円、「賃借料」91,017千円、「その他」320,359千円は、「その他」503,193千円として組み替えております。

なお、当該変更は、財務諸表規則第85条に基づくものであります。

(キャッシュ・フロー計算書)

前事業年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他固定資産の取得による支出」に含めていた「無形固定資産の取得による支出」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度のキャッシュ・フロー計算書において、「その他固定資産の取得による支出」に表示していた△8,654千円は、「無形固定資産の取得による支出」△7,184千円、「その他固定資産の取得による支出」△1,469千円として組替えております。

(単体開示の簡素化の改正に伴い、注記要件が変更されたものに係る表示方法の変更)

財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産並びに担保付債務は以下のとおりであります。

(1)担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年3月31日)		当事業年度 (平成26年3月31日)	
建物	1,241,014千円	(1,241,014千円)	1,198,050千円	(1,198,050千円)
構築物	338,861千円	(338,861千円)	326,426千円	(326,426千円)
機械及び装置	1,228,548千円	(1,228,548千円)	1,149,901千円	(1,149,901千円)
車両運搬具	1,551千円	(1,551千円)	1,033千円	(1,033千円)
工具、器具及び備品	19,436千円	(19,436千円)	59,939千円	(59,939千円)
土地	2,803,502千円	(2,803,502千円)	2,803,502千円	(2,803,502千円)
投資有価証券	164,894千円	－千円	165,021千円	－千円
合計	5,797,809千円	(5,632,914千円)	5,703,875千円	(5,538,853千円)

(注) 上記資産のうち、( )内書は工場財団抵当に供しております。

(2)「担保に供している資産」によって担保されている債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	800,000千円	－千円
社債	201,000千円	104,000千円
（うち、1年内償還予定の社債）	97,000千円	72,000千円
長期借入金	838,000千円	2,302,000千円
（うち、1年内返済予定の長期借入金）	336,000千円	336,000千円
合計	1,839,000千円	2,406,000千円

(注) 上記金額は全額、工場財団抵当と投資有価証券の質権で担保されております。

上記債務のうち、社債には銀行保証が付されております。

※2 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。

なお、再評価差額については、当該差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額によっております。

再評価を行った年月日 平成14年3月31日

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価が		
再評価後の帳簿価額を下回る金額	904,915千円	904,915千円

※3 過年度に取得した資産のうち、国庫補助金の受入に伴い、構築物について8,192千円の圧縮記帳を行っております。

貸借対照表計上額は、この圧縮記帳額を控除しております。

※4 事業年度の末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前事業年度末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が前事業年度末日の残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	21,672千円	－千円

※5 所有権移転外ファイナンス・リース取引に相当するガスタービン発電設備等であります。

※6 化成品関係事業の一部撤退に伴う設備の撤去に対する引当金であります。

7 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメントライン契約を締結しております。

当事業年度末における貸出コミットメントライン契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
貸出コミットメントライン契約の総額	1,000,000千円	1,000,000千円
借入実行残高	800,000千円	－千円
差引額	200,000千円	1,000,000千円

(損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。なお、以下の金額は戻入額と相殺した後のものです。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上原価	151,896千円	171,584千円

※2 他勘定への振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
消耗品費	8,377千円	2,984千円
研究開発費	△18,661千円	△651千円
事業撤退損	－千円	123,046千円
計	△10,283千円	125,379千円

※3 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	161,993千円	360,481千円

※4 東日本大震災に係る被災地域の復旧及び復興促進を目的とする中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業に関する福島県からの補助金であります。

※5 東日本大震災に係る被災地域の復旧及び復興促進を目的とする雇用支援並びに設備投資に対する福島県からの補助金であります。

※6 米国において輸出関税率の誤適用に伴う追加支払であります。

※7 常磐工場の一部設備の操業一時休止に伴うものであります。

※8 東京電力株式会社から公表された賠償基準に基づく、福島第一原子力発電所の事故に伴う風評被害等に対する賠償金であります。

※9 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
固定資産除却損		
建物	4,767千円	3,103千円
構築物	1,085千円	399千円
機械及び装置	11,900千円	16,815千円
車両運搬具	0千円	1千円
工具、器具及び備品	0千円	307千円
撤去費用その他	17,575千円	44,478千円
計	35,328千円	65,105千円

※10 当社は以下の資産グループについて減損損失を特別損失に計上いたしました。

用途	種類	場所	減損損失
化成品製造設備	建物、構築物、 機械及び装置、 車両運搬具、 工具、器具及び備品	常磐工場 (福島県いわき市)	329,179千円

当社は、事業の区分をもとに概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって資産のグルーピングを行っております。

また、遊休状態にある資産については物件ごとに評価を行っております。

化成品製造設備については、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなっており、将来キャッシュ・フローによって帳簿価額の全額を回収できる可能性が低いと判断し、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。この減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物115,962千円、構築物38,104千円、機械及び装置173,984千円、車両運搬具542千円、工具、器具及び備品585千円であります。

なお、回収可能価額は、使用価値により測定しており、使用価値は将来キャッシュ・フローを4.0%で割り引いて算定しております。

※11 事業撤退損は化成品関係事業の一部撤退に伴い発生した費用であり、内訳は下記の通りであります。

固定資産除却損	30,086千円
固定資産解体引当金繰入	60,600千円
減損損失(注)	216,730千円
たな卸資産評価損	140,155千円
計	447,571千円

(注) 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損処理を特別損失に計上いたしました。

用途	種類	場所	減損損失
化成品製造設備	建物、構築物、 機械及び装置、 車両運搬具、 工具、器具及び備品	常磐工場 (福島県いわき市)	216,730千円

当社は、事業の区分をもとに概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位によって資産のグルーピングを行っております。

また、遊休状態にある資産については物件ごとに評価を行っております。

化成品製造設備については、化成品関係事業の一部撤退に伴い、将来キャッシュ・フローによって帳簿価額の全額を回収できる可能性が無いと判断し回収可能価額は、零として算定しております。この減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

減損損失の内訳は、建物37,883千円、構築物23,628千円、機械及び装置151,188千円、車両運搬具136千円、工具、器具及び備品3,893千円であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	21,974,000	—	—	21,974,000

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	132,407	2,020	—	134,427

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 2,020株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	65,518	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	21,974,000	—	—	21,974,000

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	134,427	2,821	—	137,248

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取請求による増加 2,821株

## 3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	65,518	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	65,510	3.00	平成26年3月31日	平成26年6月25日

## (キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金	621,194千円	1,646,943千円
預入期間が3か月超の定期預金	△220,000千円	△220,000千円
現金及び現金同等物	401,194千円	1,426,943千円

## (リース取引関係)

## 1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## ① リース資産の内容

・有形固定資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に相当するガスタービン発電設備等であります。

## ② リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載の通りであります。

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入や社債の発行による方針です。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程等に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を定期的に把握する体制としています。また、外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価を把握しております。

従業員に対する長期貸付金は、毎月の給与及び賞与より回収しており、ほぼ信用リスクはないと判断しております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金、預り金、設備関係支払手形、設備関係未払金は、1年以内の支払期日です。また、その一部の外貨建てのものは、為替の変動リスクに晒されていますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金及び社債は主に設備投資に係る資金調達です。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、デリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しています。ヘッジの有効性の評価方法について、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理の要件に該当する金利スワップ取引は、有効性の判定は省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、外国為替取引に関する規程、デリバティブ取引に関する規程に従って行っており、また、デリバティブの利用に当たっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い大手金融機関とのみ取引を行っています。

また、営業債務や借入金等の金銭債務は、流動性リスクに晒されていますが、当社では、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しています。

## (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注2)を参照ください。）。

前事業年度（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	621,194	621,194	—
(2) 受取手形	208,060	208,060	—
(3) 売掛金	3,301,139	3,301,139	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	1,552,980	1,552,980	—
(5) 従業員に対する長期貸付金	34,859	34,859	—
(6) 支払手形	(253,972)	(253,972)	—
(7) 買掛金	(959,097)	(959,097)	—
(8) 短期借入金	(2,040,000)	(2,040,000)	—
(9) 未払金	(202,044)	(202,044)	—
(10) 預り金	(8,574)	(8,574)	—
(11) 設備関係支払手形	(86,432)	(86,432)	—
(12) 設備関係未払金	(248,667)	(248,667)	—
(13) 社債	(328,500)	(331,111)	△2,611
(14) 長期借入金	(838,000)	(840,401)	△2,401
(15) デリバティブ取引	(9,343)	(9,343)	—

(\*) 負債に計上されているものについては、( ) で示しています。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で示しています。

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	1,646,943	1,646,943	—
(2) 受取手形	198,494	198,494	—
(3) 売掛金	2,563,006	2,563,006	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	1,958,918	1,958,918	—
(5) 従業員に対する長期貸付金	31,449	31,449	—
(6) 支払手形	(283,634)	(283,634)	—
(7) 買掛金	(1,198,633)	(1,198,633)	—
(8) 短期借入金	(800,000)	(800,000)	—
(9) 未払金	(196,235)	(196,235)	—
(10) 預り金	(8,525)	(8,525)	—
(11) 設備関係支払手形	(242,829)	(242,829)	—
(12) 設備関係未払金	(83,832)	(83,832)	—
(13) 社債	(196,500)	(198,116)	△1,616
(14) 長期借入金	(2,302,000)	(2,360,227)	△58,227
(15) デリバティブ取引	(3,768)	(3,768)	—

(\*) 負債に計上されているものについては、( ) で示しています。

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、( ) で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金

預金は全て短期間であるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

(2) 受取手形及び(3) 売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。外貨建てによる売掛金のうち、ヘッジ対象とされている売掛金は、為替予約の振当処理により、その時価は当該売掛金の時価に含めて記載しております(下記(15)①参照)。

(4) 投資有価証券

これらの時価は、取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(5) 従業員に対する長期貸付金

従業員に対する長期貸付金は、固定金利によっているが、短期プライムレートが±0.5%以上変動した場合には、その翌月から変動後の短期プライムレートに連動した固定金利に変更されます。したがって、時価は帳簿価格に近似していることから、当該帳簿価格によっております。

(6) 支払手形、(7) 買掛金、(8) 短期借入金、(9) 未払金、(10) 預り金、(11) 設備関係支払手形及び(12) 設備関係未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっております。

(13) 社債（1年内償還予定の社債を含む。）

当社の発行する社債は、市場価格のないものであり、時価は元利金の合計額を、新規に同様の社債の発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(14) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。ただし、金利スワップの特例処理の対象となる変動金利による長期借入金(下記(15)②参照)は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(15) デリバティブ取引

デリバティブ取引は、全てヘッジ会計を適用しており、ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次の通りであります。

①通貨関連

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
為替予約等の振当処理	為替予約取引	売掛金			
	売建				
	米ドル		45,010	—	(*)
	ユーロ		45,675	—	(*)
	合計		90,685	—	(*)

(\*) 為替予約は、振当処理により、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
為替予約等の振当処理	為替予約取引	売掛金	41,783	-	(*)
	売建				
	米ドル				
	ユーロ		-		(*)
合計			41,783	-	(*)

(\*) 為替予約は、振当処理により、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

②金利関係

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ取引	長期借入金	750,000	450,000	9,343(*1)
	支払固定・受取変動				
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金	88,000	52,000	(*2)
	支払固定・受取変動				

(\*1) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*2) 特例処理による金利スワップは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ取引	長期借入金	450,000	150,000	3,768(*1)
	支払固定・受取変動				
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引	長期借入金	1,852,000	1,816,000	(*2)
	支払固定・受取変動				

(\*1) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*2) 特例処理による金利スワップは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
関係会社株式	101,306	101,306

関係会社株式は、非上場であり、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

## (注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	621,194	—	—	—
受取手形	208,060	—	—	—
売掛金	3,301,139	—	—	—
従業員に対する長期貸付金	3,715	12,103	9,675	9,364
合計	4,134,110	12,103	9,675	9,364

当事業年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,646,943	—	—	—
受取手形	198,494	—	—	—
売掛金	2,563,006	—	—	—
従業員に対する長期貸付金	5,278	9,207	8,703	8,259
合計	4,413,722	9,207	8,703	8,259

## (注4) 短期借入金、社債及び長期借入金の決算日後の返済予定額

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	2,040,000	—	—	—	—	—
社債	132,000	107,000	67,000	22,500	—	—
長期借入金	336,000	336,000	166,000	—	—	—
合計	2,508,000	443,000	233,000	22,500	—	—

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	800,000	—	—	—	—	—
社債	107,000	67,000	22,500	—	—	—
長期借入金	336,000	166,000	450,000	450,000	450,000	450,000
合計	1,243,000	233,000	472,500	450,000	450,000	450,000

## (有価証券関係)

## 1 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(前事業年度及び当事業年度とも貸借対照表計上額 子会社株式101,306千円)は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 2 その他有価証券

	種類	前事業年度 平成25年3月31日			当事業年度 平成26年3月31日		
		貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)	貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	1,299,327	821,120	478,206	1,900,178	1,026,040	874,137
	小計	1,299,327	821,120	478,206	1,900,178	1,026,040	874,137
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	253,653	269,832	△16,179	58,740	64,912	△6,172
	小計	253,653	269,832	△16,179	58,740	64,912	△6,172
合計		1,552,980	1,090,953	462,026	1,958,918	1,090,953	867,965

(注) 前事業年度において、44,350千円の減損処理を行っております。

当事業年度において、減損処理を行った金額はありません。

なお、当社は減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、3期連続で30~50%下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

## 3 事業年度中に売却したその他有価証券

区分	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)			当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		
	売却額 (千円)	売却益の 合計額 (千円)	売却損の 合計額 (千円)	売却額 (千円)	売却益の 合計額 (千円)	売却損の 合計額 (千円)
株式	141,354	7,851	—	—	—	—
合計	141,354	7,851	—	—	—	—

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前事業年度（平成25年3月31日）

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
為替予約等の振 当処理	為替予約取引	売掛金			
	売建				
	米ドル		45,010	—	(注)
	ユーロ		45,675	—	(注)
合計			90,685	—	(注)

(注) 為替予約は、振当処理により、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

当事業年度（平成26年3月31日）

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
為替予約等の振 当処理	為替予約取引	売掛金			
	売建				
	米ドル		41,783	—	(注)
	ユーロ		—	—	(注)
合計			41,783	—	(注)

(注) 為替予約は、振当処理により、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

## (2) 金利関連

前事業年度（平成25年3月31日）

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	750,000	450,000	9,343(*1)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	88,000	52,000	(*2)

(\*1) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*2) 特例処理による金利スワップは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当事業年度（平成26年3月31日）

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	450,000	150,000	3,768(*1)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,852,000	1,816,000	(*2)

(\*1) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(\*2) 特例処理による金利スワップは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

## (退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度及び厚生年金基金制度を設けております。

従業員の退職等の際して、割増退職金を支払う場合があります。

なお、当社は複数事業主制度である東京薬業厚生年金基金に加入しており、要拠出額を退職給付費用として処理しております。東京薬業厚生年金基金に関する事項は次の通りであります。

## (1) 制度全体の積立状況に関する事項

(単位：千円)

年金資産の額	414,218,282
年金財政計算上の給付債務の額	459,016,212
差引額	△44,797,929

## (2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

0.3% (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、未償却過去勤務債務残高38,602,692千円と、前年度からの繰越不足金6,195,237千円の合計額であります。また、未償却過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、事業主負担掛金率15.5%、償却残余期間は平成24年3月31日現在で6年10ヶ月であります。

## 2 退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

イ 退職給付債務	△1,295,910
ロ 年金資産	380,169
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	△915,740
ニ 未認識数理計算上の差異	93,481
ホ 退職給付引当金(ハ+ニ)	△822,259

## 3 退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

イ 勤務費用	64,173
ロ 利息費用	20,653
ハ 期待運用収益	△4,200
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	24,253
ホ 小計(イ+ロ+ハ+ニ)	104,880
ヘ 厚生年金基金掛金拋出額	51,004
ト 退職給付費用(ホ+ヘ)	155,884

## 4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

1.5%

(3) 期待運用収益率

1.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

10年

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金（非積立型制度ですが、勤労者退職金共済機構・中小企業退職金共済事業本部での積立てを年金資産として扱っています）を設けております。なお、従業員の退職に際して、割増退職金を支払う場合があります。

また、複数事業主制度である東京薬業厚生年金基金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であり、確定拠出制度と同様に会計処理をしております。

## 2 確定給付制度

### (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：千円)
退職給付債務の期首残高	1,295,910
勤務費用	65,149
利息費用	19,400
数理計算上の差異の発生額	9,091
退職給付の支払額	△219,557
退職給付債務の期末残高	1,169,993

### (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：千円)
年金資産の期首残高	380,169
期待運用収益	3,802
数理計算上の差異の発生額	△165
事業主からの拠出額	36,080
退職給付の支払額	△90,973
年金資産の期末残高	328,912

### (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	(単位：千円)
積立型制度の退職給付債務	1,169,993
年金資産	△328,912
未積立退職給付債務	841,080
未認識数理計算上の差異	△81,573
退職給付引当金	759,507

### (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	(単位：千円)
勤務費用	65,149
利息費用	19,400
期待運用収益	△3,802
数理計算上の差異の費用処理額	21,163
確定給付制度に係る退職給付費用	101,911

## (5) 年金資産に関する事項

## ①年金資産の主な内訳

当社は勤労者退職金共済機構・中小企業退職金共済事業本部での積立を年金資産として扱っているため内訳の明示ができません。

## ②長期期待運用収益率の設定方法

中小企業退職金共済法に定められた予定運用利回りに基づいております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	1.5%
長期期待運用収益率	1.0%

## 3 複数事業主制度

確定拠出金制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、53,015千円でありま

す。

## (1) 複数事業主制度の直近の積立状況（平成26年3月31日現在）

	（単位：千円）
年金資産の額	465,229,761
年金財政計算上の給付債務の額	497,125,089
差引額	△31,895,327

## (2) 複数事業主制度の掛金に占める当社の割合（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

0.3%

## (3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、未償却過去勤務債務残高49,513,510千円より当年度剰余金17,618,182千円を減算した額であります。また、未償却過去勤務債務残高の内訳は特別掛金収入現価であり、償却方法は元利均等方式、事業主負担掛金率15.5%、償却残余期間は平成25年4月1日現在で9年0ヶ月であります。

(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
流動資産		
賞与引当金	50,053千円	64,748千円
たな卸資産	167,012千円	224,196千円
未払事業税	10,599千円	15,921千円
繰越欠損金	18,546千円	－千円
その他	1,379千円	1,294千円
評価性引当額	△167,125千円	△224,303千円
小計	80,465千円	81,859千円
合計	80,465千円	81,859千円
固定資産		
退職給付引当金	296,669千円	268,713千円
一括償却資産	896千円	1,419千円
ゴルフ会員権	2,273千円	494千円
長期未払金	5,324千円	990千円
その他有価証券	15,691千円	8,307千円
減損損失	244,776千円	307,275千円
資産除去債務	5,354千円	4,991千円
繰越欠損金	27,157千円	－千円
その他	5,510千円	25,058千円
評価性引当額	△237,856千円	△230,184千円
小計	365,797千円	387,067千円
繰延税金負債(固定)との相殺	△153,737千円	△288,839千円
合計	212,059千円	98,227千円
固定負債		
圧縮記帳積立金	△22,700千円	△22,700千円
その他有価証券評価差額金	△130,273千円	△265,449千円
有形固定資産(資産除去債務)	△763千円	△689千円
小計	△153,737千円	△288,839千円
繰延税金資産(固定)との相殺	153,737千円	288,839千円
繰延税金負債(固定)計	－千円	－千円
差引：繰延税金資産純額	292,525千円	180,087千円
また、再評価に係る繰延税金資産及び繰延税金負債の内訳は、以下のとおりです。		
再評価に係る繰延税金資産	454,817千円	454,817千円
評価性引当額	△454,817千円	△454,817千円
再評価に係る繰延税金資産合計	－千円	－千円
再評価に係る繰延税金負債	△697,655千円	△697,655千円
再評価に係る繰延税金負債の純額	△697,655千円	△697,655千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	37.76%	37.76%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.73%	1.85%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.83%	△1.93%
住民税均等割等	1.54%	3.99%
評価性引当額	8.50%	36.26%
税率変更による影響額	－%	6.42%
法人税の特別控除	－%	△5.11%
その他	△0.63%	△0.39%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	48.07%	78.85%

## 3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以降に開始する事業年度から復興特別法人税が課せられないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の37.76%から35.38%に変更となります。

その結果、流動資産に計上される繰延税金資産の金額が5,506千円及び固定資産に計上される繰延税金資産が10,840千円それぞれ減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が16,257千円増加しております。

## 【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

該当事項はありません。

## （資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

## (1) 当該資産除去債務の概要

常磐工場及び東京研究所の建築物の一部にアスベスト含有建材が使用されており、当該資産の除去に係る費用であります。

## (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を残存耐用年数と見積り、割引率は残存耐用年数に対応する国債の利率を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## (3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	14,233千円	14,180千円
時の経過による調整額	153千円	155千円
資産除去債務の履行による減少額	206千円	226千円
期末残高	14,180千円	14,109千円

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社はファインケミカル事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 【関連情報】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報 (単位：千円)

製品区分	アミノ酸関係	化成品関係	医薬品関係	合計
外部顧客への売上高	3,173,128	3,339,689	2,096,200	8,609,017

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高 (単位：千円)

日本	北アメリカ	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
5,848,485	1,096,292	836,888	547,484	279,866	8,609,017

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所属している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
住友化学株式会社	1,119,798	ファインケミカル事業
株式会社山口薬品商会	952,257	ファインケミカル事業

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報 (単位：千円)

製品区分	アミノ酸関係	化成品関係	医薬品関係	合計
外部顧客への売上高	4,245,965	3,026,383	2,150,231	9,422,580

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高 (単位：千円)

日本	北アメリカ	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
5,333,953	2,018,567	1,153,016	676,517	240,526	9,422,580

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所属している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社山口薬品商会	1,123,596	ファインケミカル事業
住友化学株式会社	1,028,608	ファインケミカル事業

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとののれん償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(持分法損益等)

## 1 関連会社に関する事項

当社は、関連会社を有しておりません。

## 2 開示対象特別目的会社に関する事項

当社は、開示対象特別目的会社を有しておりません。

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額 445.49円	1株当たり純資産額 457.68円
1株当たり当期純利益金額 15.47円	1株当たり当期純利益金額 2.45円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等の潜在株式がないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等の潜在株式がないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益(千円)	337,890	53,504
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	337,890	53,504
期中平均株式数(株)	21,840,986	21,838,378

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	9,729,393	9,994,259
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	9,729,393	9,994,259
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	21,839,573	21,836,752

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ⑤ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,541,847	99,355	138,324 (37,883)	4,502,878	3,123,144	94,560	1,379,734
構築物	1,910,219	50,141	32,775 (23,628)	1,927,585	1,597,839	38,629	329,745
機械及び装置	17,377,611	444,621	637,619 (151,188)	17,184,613	16,034,711	354,106	1,149,901
車両運搬具	93,991	—	2,036 (136)	91,955	88,853	2,141	3,101
工具、器具及び備品	1,519,618	89,957	106,656 (3,893)	1,502,919	1,339,699	40,351	163,220
土地	3,181,828 [686,371]	—	—	3,181,828 [686,371]	—	—	3,181,828
リース資産	—	383,050	—	383,050	6,384	6,384	376,665
建設仮勘定	54,230	598,089	627,429	24,889	—	—	24,889
有形固定資産計	28,679,347	1,665,214	1,544,841 (216,730)	28,799,719	22,190,632	536,174	6,609,087
無形固定資産							
借地権	—	—	—	21,920	—	—	21,920
ソフトウェア	—	—	—	236,009	169,561	23,397	66,447
電話加入権	—	—	—	3,986	—	—	3,986
無形固定資産計	—	—	—	261,916	169,561	23,397	92,355
長期前払費用	19,084	71,734	31,122	59,696	509	184	59,186
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1. 当期増加額の主な内訳は次のとおりであります。

機械及び装置 常磐工場の医薬品製造設備 162,435千円

リース資産 常磐工場のガスタービン発電設備等 383,050千円

建設仮勘定増加の主なものは、常磐工場の新規製造設備取得と増強によるものであります。

2. 当期減少額の主な内訳は次のとおりであります。

機械及び装置 常磐工場の動力関係設備 91,921千円

機械及び装置 常磐工場の化成品関係設備 140,536千円

3. 無形固定資産の金額は資産の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略いたしました。

4. 土地の当期首残高及び当期末残高の〔 〕は、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）により行った事業用土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

5. 「当期減少額」欄の（ ）は内数で、当期の減損損失計上額であります。

## 【社債明細表】

銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限	摘要	備考
第4回無担保社債	平成年月日 20.7.31	140,800	83,200 (57,600)	1.54	—	平成年月日 27.7.31	運転資金	(注2)
第5回無担保社債	平成年月日 20.9.16	25,000	— (—)	1.62	—	平成年月日 25.9.13	運転資金	(注2)
第6回無担保社債	平成年月日 20.9.25	35,200	20,800 (14,400)	1.61	—	平成年月日 27.9.25	運転資金	(注2)
第7回無担保社債	平成年月日 21.9.30	127,500	92,500 (35,000)	1.10	—	平成年月日 28.9.30	運転資金	—
合計	—	328,500	196,500 (107,000)	—	—	—	—	—

- (注) 1 当期末残高欄( )書は、内書で1年以内に償還が予定される額であります。  
 2 銀行保証が付いており、当該銀行保証には工場財団の担保が付されております。  
 3 貸借対照表日後5年以内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
107,000	67,000	22,500	—	—

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,040,000	800,000	1.443	—
1年以内に返済予定の長期借入金	336,000	336,000	0.996	—
1年以内に返済予定のリース債務	—	25,536	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	502,000	1,966,000	1.016	平成27年9月～ 平成31年10月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	351,129	—	平成41年1月
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	2,878,000	3,478,665	—	—

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
 なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各事業年度に配分しているため、「平均利率」を記載しておりません。  
 2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	166,000	450,000	450,000	450,000
リース債務	25,536	25,536	25,536	25,536

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	300	300	—	300	300
賞与引当金	116,280	160,350	116,280	—	160,350
固定資産解体引当金	—	60,600	—	—	60,600

- (注) 1. 貸倒引当金の当期減少額の「その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末における資産除去債務の金額が当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

## ① 流動資産

## (1) 現金及び預金

種別	金額(千円)
現金	6,452
預金	
当座預金	233,840
普通預金	1,133,779
通知預金	50,000
定期預金	220,000
別段預金	2,871
計	1,640,491
合計	1,646,943

## (2) 受取手形

## (a) 相手先別内訳

会社名	金額(千円)
住友商事ケミカル株式会社	76,847
ニプロファーマ株式会社	68,460
JNC株式会社	43,088
上野製薬株式会社	4,336
ジーベンケミカル株式会社	3,234
その他	2,528
合計	198,494

## (b) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年4月	72,243
平成26年5月	48,145
平成26年6月	27,115
平成26年7月	50,990
合計	198,494

## (3) 売掛金

## (a) 相手先別内訳

会社名	金額(千円)
株式会社山口薬品商会	624,737
住友化学株式会社	372,955
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社	113,465
DSM NUTRITIONAL PRODUCTS (UK) LIMITED	102,528
丸紅株式会社	97,154
その他	1,252,164
合計	2,563,006

## (b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2}$ (B) 365
3,301,139	9,814,055	10,552,188	2,563,006	80.5	109.0

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

## (4) たな卸資産

科目	内容	金額(千円)
製品	アミノ酸関係	1,070,678
	化成品関係	745,358
	医薬品関係	707,184
	小計	2,523,221
仕掛品	アミノ酸関係	80,085
	化成品関係	291,465
	医薬品関係	184,344
	小計	555,895
原材料	アミノ酸関係	91,497
	化成品関係	481,852
	医薬品関係	283,204
	小計	856,555
貯蔵品	燃料	12,183
	消耗品	50,846
	小計	63,030
計		3,998,702

## (5) 投資有価証券

区分及び銘柄	金額(千円)
株式	
その他有価証券	
ゼリア新薬工業株式会社	786,209
大日本住友製薬株式会社	305,040
あすか製薬株式会社	155,550
小野薬品工業株式会社	137,676
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	98,091
住友商事株式会社	95,849
ニプロ株式会社	92,700
株式会社クレハ	75,640
久光製薬株式会社	63,910
株式会社常陽銀行	49,440
その他6銘柄	98,812
小計	1,958,918
計	1,958,918

## ② 流動負債

## (1) 支払手形

## (a) 相手先別内訳

会社名	金額(千円)
住友商事ケミカル株式会社	114,787
ヤクシ化成株式会社	16,433
株式会社福井洋樽製作所	15,517
日本錬水株式会社	13,744
サンライズ株式会社	11,499
その他	111,652
合計	283,634

## (b) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年4月	68,808
平成26年5月	90,219
平成26年6月	51,101
平成26年7月	73,505
合計	283,634

## (2) 買掛金

## 相手先別内訳

会社名	金額(千円)
株式会社エーピーアイコーポレーション	453,648
株式会社クレハトレーディング	81,708
住友商事ケミカル株式会社	66,580
東京ガス株式会社	64,701
日化トレーディング株式会社	57,300
その他	474,694
合計	1,198,633

## (3) 設備関係支払手形

## (a) 相手先別内訳

会社名	金額(千円)
株式会社ソウ・システム・サービス	51,954
株式会社ユアテック	36,960
株式会社アドバン	25,200
日化エンジニアリング株式会社	21,262
株式会社アペックス和光	10,377
その他	97,075
計	242,829

## (b) 期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年4月	15,040
平成26年5月	79,437
平成26年6月	72,259
平成26年7月	76,090
計	242,829

## ③ 固定負債

## (1) 退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	1,169,993
年金資産	△328,912
未認識数理計算上の差異	△81,573
計	759,507

## (3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当事業年度
売上高 (千円)	2,299,940	4,588,124	6,942,544	9,422,580
税引前四半期(当期)純利益金額 (千円)	405,093	463,067	428,791	253,100
四半期(当期)純利益金額 (千円)	269,716	303,923	280,147	53,504
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	12.35	13.92	12.83	2.45

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	12.35	1.57	△1.09	△10.38

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、東京都において発行する日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 <a href="http://www.yuki-gosei.co.jp/">http://www.yuki-gosei.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

(注) 1 会社法第440条第4項の規定により決算公告は行いません。

2 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売渡すことを請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書及び その添付書類並びに確認書	事業年度 (第93期)	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日	平成25年6月24日 関東財務局長に提出。
(2)	内部統制報告書及び その添付書類	事業年度 (第93期)	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日	平成25年6月24日 関東財務局長に提出。
(3)	企業内容等の開示に関する内 閣府令第19条第2項第9号の 2(株主総会における議決権 行使の結果)の規定に基づく 臨時報告書			平成25年6月24日 関東財務局長に提出。
(4)	四半期報告書及び確認書	事業年度 (第94期 第1四半期)	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	平成25年8月13日 関東財務局長に提出。
(5)	四半期報告書及び確認書	事業年度 (第94期 第2四半期)	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	平成25年11月13日 関東財務局長に提出。
(6)	四半期報告書及び確認書	事業年度 (第94期 第3四半期)	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	平成26年2月13日 関東財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年6月23日

有機合成薬品工業株式会社  
取締役会 御中

## 監査法人 保森会計事務所

代表社員 業務執行社員	公認会計士	横山	博	㊞
代表社員 業務執行社員	公認会計士	渡部	逸雄	㊞

## &lt;財務諸表監査&gt;

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている有機合成薬品工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第94期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、有機合成薬品工業株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 強調事項

会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、有形固定資産の減価償却方法について、従来、主として定率法を採用していたが、当事業年度より定額法に変更している。当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、有機合成薬品工業株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

## 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、有機合成薬品工業株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。